

令和2年4月11日

南の風 339

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

緊急事態宣言が発出されました。まずここ一ヶ月、『一人ひとりが責任をもって行動を自粛する』ことが喫緊の課題です。みんなで気持ちを一つにして乗り切っていきましょう。338号の続きです。

「まじめなことをゆかいに」そして「ゆかいなことはあくまでゆかいに」というのは、「ゆかいに」がポイントになります。「ゆかい」ということばには、「心地よい」という意味があります。学びの場（ここではバスケットボールの練習）で大切なことは、「練習はきついけど、このプレーができるようになりたい。」あるいは「できるようになった。やったぞ!」と選手に思わせることだと思えます。

「ゆかいなことはあくまでゆかいに」の「あくまで」は、『徹底的に』とか『どこまでも』といった意味が入っています。そこには「追求する」という意味も重なっている気がします。

実際、調べてみると井上ひさしは、「ゆかいなことはあくまでゆかいに」を「ゆかいなことはいっそうゆかいに」と別の本で紹介しています。

実は井上ひさしのこのことばには続きがあります。興味のある方は調べてみてください。

このことばに出会った時に、バスケットボールの指導者にとっても、たいへん示唆に富んだことばだと感じました。私は指導に活かせると思い、次のようにしてみました。

むずかしいことをやさしく
やさしいことをふかく
ふかいことをくりかえし
くりかえしながらおもしろく
おもしろいことをしんげんに
しんげんなことをゆかいに

教えること

としてみました。

話が横道にそれました。もどります。お尋ねのことについてです。

ドリブルドライブモーションオフENSEを指導する時に、難しくしてしまっているのはゲーム形式にした時の指導内容の多さだと思います。ドリブルドライブモーションを仕掛ける前に、付帯的に指導すること（エントリーの仕方やディフェンスへの対応等）が多くなってしまい、選手に教えることが増えて混乱してしまうのでしょうか。大切なことは、『結果を求めることを急がない』ということです。

私も含めて指導者は、「早く課題のプレーがゲームで使えるようになってほしい」と願います。すると細かいところまで気になり、指示や指導が増えてしまいます。一方選手は課題のプレーだけでなく、指導者から指摘された多くのスキルで、学ぶことがあふれて飽和状態になります。

2on2以上のチームプレーを教え定着させゲームで使えるようになるには、少なくとも2ヶ月（週3回練習ができるとして）かかると思います。あせらないことです。

私はチームプレーを指導する時には、まず全体像と着地点を選手にうつします。次号にします。